

学力の基礎をきたえ どの子も伸ばす研究会ニュース

学力研の広場

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

NO. 367

2026.9.9

学 力 研 発 行

常任委員長 岸本ひとみ

ペイペイ銀行うぐいす支店 普:3607141

8月1日、エル・大阪にて、学力研の全国フォーラムが開催されました。連日続く猛暑にも関わらず、全国各地から学力研の仲間たちが参集しました。今年度は、沖縄県からも来場された方もいました。学力研の教育価値に賛同して、こんなにも多くの方が来てくださったことを、嬉しく感じました。午前中は、全体会として基調提案、実践報告、そして国立情報科学研究所教授である新井紀子さんの記念公園がありました。午後は、それぞれの学年別講座や分科会に分かれて講座を行いました。どの会場も参加者の熱気に満ちあふれており、「どの子も伸ばす」に全力を尽くす学力研教師の魂を強く感じました。各講座の内容を、常任委員の皆さんにまとめて頂きましたので、当日参加された方も、残念ながら参加できなかった方も、ぜひお読みください。（古東）

CONTENTS

◇2026 全国フォーラムのまとめ◇

全体会まとめ

1 年生講座

2 年生講座

3 年生講座

4 年生講座

5 年生講座

6 年生講座

家庭教育&中学・高校分科会

深澤 英雄・・・2

塩田 真奈実・・・3

橋口 佳世・・・4

川崎 和代・・・6

図書 啓展・・・7

山口 左知男・・・8

荒井 賢一・・・10

阿久澤 恵子・・・11

◇連載◇

考える力をつけるための授業の組み立て方⑦

荒井 賢一・・・12

教科書「を」と「で」で教え・学ぶ 社会歴史授業⑥

第五時間目「古墳づくりと渡来人」

深沢 英雄・・・16

局長・常任委員長だより

・・・17

学力研カレンダー

・・・18

学力研全国フォーラム2026 全体会まとめ

学力研常任委員 深沢 英雄

一、実践報告 言葉にこだわる一年生

～思考を支える板書とノート実践～

岡本美穂（学力研事務局長）

全体会のトップバッターは岡本先生の実践報告でした。感想文には、

「岡本先生の板書の本はいつも参考にさせていただいています。圧倒的なスイミーの授業、子ども達のしつかり音読、4月からしつかり積み上げるとこんな力がつくのか！と感動しました。何よりびつくりしたのは、1年生も「問い」が立てられるのかということです。めあてを書いた後「きのうは元気がなかったスイミーが今日は」等きちんと個々に問いを持ち発信している姿に驚愕しました。」

「岡本先生に実践報告をお聞きして、みんなで読み、考え、つながることの大切さと温かさを感じました。授業中の子どもたちがものすごくいきいきしていて、私もこんな授業ができるよう学んでいきたいです。音読についての話が心に残っていて、一人で読むことが

できるようになるまで教師はいねいに見取って指導していかないといけないと反省しました。子ども同士がつながって考えをみんなのものにしていけるよう授業づくりを考えていきたいです。」

二、記念講演

「自力で学び続ける子どもに育てる」

～「シン読解力」の土台をつくる～

新井紀子

参加者の皆さんが待っていた記念講演です。「新井先生のお話に引き込まれました。何でもうのみにするのではなく、自分で考えて、本当に子どもに必要な力をつけられるようにしていきたいです。また、私もRSTを受けてみたいと思いました。教室にも、漢字が読めない、読めるが時間がかかる、読めなくても理解できていない等いろいろな子がいます。「読めない子は読めない」と放置せず必要な力がつくようトレーニングしていきたいです。」

「新井先生のお話とてもおもしろかった

です。一番に従来の日本式の授業は成立をしないというのは現実だと感じました。ただ従来が成立しないからといって、タブレットを使う方向性に行くことは非常にセンスがないと分かりました。認知負荷を減らすアプローチは科学的だと感じました。そして解決には、トレーニングを重ねていくしかないという部分。そしてトレーニングについて広くできるように工夫されている姿からも読解力の改善への思いを感じました。」

三、全体会を通じて

落ち研ができて四十一年、学力研に名所変更して二十五年、岡本実践は私たちの研究会の実践研究の到達点でもあります。みんなで読む、みんなで考える、みんなで学ぶ。それは、子どもがつくる一斉授業です。一人ひとりが輝いていた岡本学級の子どもの姿が体現していました。新井先生の講演の中で「私は、学力研に科学を提供するためにきました。」また「同志がいっぱいいて、嬉しい。」とも言ってくださいました。岡本実践・新井先生からの科学的視点をもとに学力研の実践・研究をさらに広げていきたい、いけるという思いになった全体会でした。

一年生講座のまとめ

塩田 真奈美(大阪)

44名参加人

一年生とは、どのような学年なのか

就学前までの生活経験のちがいや月齢のちがいなど、子どもたちの発達段階は、さまざまにあります。コロナ禍を経た今、子どもたちを取り巻く環境は、デジタル化が進み、日常における「あたりえ」の認識が変化してきています。岸本先生、岡本先生からは、一年生の子どものたちの学びをどのように育てていくのか、講座のみなさんと、ともに考えました。

「念頭操作ができる一年生に育てる算数」

岸本 ひとみ (兵庫)

計算の習熟をいつ、どこで、どのようにしているのか、計算カードを用いてとりくむ良さが三つあることを知りました。

一、短時間で練習できる。

二、難易度を調整できる。

三、自分でカードを組み立てられる。

一斉に同じカード順で進めるだけではなく、個に応じてカードの組み立てを調整し、自分でカードの量や難易度を考え、コーディネートできるので。おうちの人を頼らなくても、学校で毎日カードをめくり、練習することで、脳の機能が向上していく良さがあります。また、3つの数の計算のような加減混合の場合、計算カードで身についた暗算力が役に立ちます。二学期からは、具体物操作から、ノート指導へ移行し、念頭操作の段階へと進めていきます。子どもたちの使用するノート

のマスをも、(10×12マス)増やし、補助数字や、ふりかえりを書く練習にしていきます。実際に岸本学級の子どもたちが、○の数を書いて計算を解くためのノート作りを私たちも実践し、子どもたちの思考を整理して考え、確かめることを体感しました。

計算の習熟方法には、百マス計算や読み上げ計算などもありますが、あまり詰め込み過ぎず、学年、学級の子どもたちの進路調整をしながら、基礎計算力をじっくり育てていくことをスモールステップで学びました。

一年生から育てる 考える力と言葉の学び

教科書とノートで作る

国語と学級づくり

岡本 美穂 (大阪)

子どもたちの「みてほしい」という想いは、一年生に限らず、どの学年にもあります。一年生の子どもたちに大切なことは、きっちり「教え込む」ではなく、できることを一つひとつ増やし、「すき」になっていくことを、一年かけて育てていくことです。岡本学級がこだわったことは、「きく」を育てることです。授業のはじめに読み上げ漢字などを行い、きき合える環境を、ペアやグループで自然と関わり合えるよう、授業の中で必然的にしかけておられました。「きく」ことを軸におきながら、「おたずね」を習慣化することで、感想だけに留まらず、問いに対しての反応を言葉で返すこと

により、さらに「きく力」を高める効果があると思われました。図工の粘土作りの一例では、単につくって終わりではなく、子どもたちが自分の作品を紹介し、周りの友だちからの「おたずね」に思わず話したくなる対話の心地よさが生まれると言うエピソードがありました。子どもたちの「話す」わかってほしい。「きく」わかんない。という互いを想う気もちは、この「おたずね文化」が教室に根づいたからだと考えられます。そのためにも、自分の考えやおもいを表現する(話す・きく・読む・かく)ことは欠かせません。

岡本先生が「今、みなさんの学級の子どもたちは、声を出せていますか？」と問われました。話す力の基盤は声を出すこと。そして、文字を指でなぞりながらしっかりと読む練習を積み重ねていくことで、子どもたちの読める自信が声にあらわれると話されました。

書く活動では、毎日の連絡帳に一文の視写からはじめ、一行日記にとりくまれ、教師と子ども、保護者をもつなぐコミュニケーションにされていたり、生活科での観察日記では、自分で書く量を選択できるような一枚のプリントで、どの子も書ける工夫をされていたりした実際の宿題プリントや子どもたちのノートに参加者のみなさんが興味を惹かれていました。

一年生講座の感想では、二学期からでも間に合う」という言葉に勇気をもらえた方や、具体的なスモールステップの授業実践に「やってみよう」と思われた方など、たくさんの方が寄せられ、会場では、みなさんの悩みを共有し、一人でも多くの方の明日への実践につながる講座となりました。

二年生講座のまとめ

橋口 佳世(大阪みなみ学力研)

10名参加

「つなぐ」を意識した

国語の授業と学級づくり

宮川 佳代子(京都)

まず、学級づくりのお話をしてください、教師が子どもたちをどんな人間に育てたいかをしっかりとすることが大事でこの3つを挙げられた

- ・自分の目で見え、自分の耳で聞いて、自分の頭で考えて行動できる人

- ・相手の気持ちも考えて行動できる優しい人
- ・みんなと協力して、みんなが幸せになれるように少しでも行動できる人

この3つを挙げられた。

次に、授業だけでなくいろいろな場面で友だちの輪を広げることができるように

① 朝の会で「はい。元気です。」の後、続けて一言。毎日テーマを決めて「わたしの好きな色は〇〇です。」「今日の朝、△△を食べました。」など友だちのことを知る。

② 1週間に1度はスピーチの時間を作る

話したい事がある人は前に出て話す。みんなは聞いた後のつぶやきオッケー。
日直さんは30秒スピーチをして、最後に「感想を言ってください。」と言わせ、言いや内容について思ったことを発信し思いをつなぐ。

③ 絵日記

1週間に一度絵日記をプリントに書かせ、掲示板の透明なファイルに入れる。2年生では、はじめ・中・終わりの組み立てを考えて書くことが大事なのでその構成を意識させるためにも毎週書かせる。読む機会を作り、友だちの絵日記を読んだり聞いたりした後、付箋にコメントを書いて透明なファイルの下に貼る。

④ 学級会の時間を有効に使う

班長会・係活動・学級会・お楽しみ会・

みんな遊び・班・遊び・班長ゲーム・議題箱(学級会で話し合っってほしいことなどをを入れる箱)

最後に国語の授業では

- ・初発の感想などを書いた時などいろいろな場面で友だちと交流する。

- ・ペア学習・グループ学習も多く取り入れている。

- ・発言する時、「〇〇さんと同じで、違って、つけたしですが」など前の人の発言を少し意識させる。

- ・「みんなて話をつなげよう」の單元では、グループ学習の話し合いがでくるので、全体グループ学習をした後、みんなグループを囲んで話し合いの再現をしてみよう、どのように話をつなげていたかをみんなで見つける。

2学期から取り組んでいきたい内容が盛りだくさんでした。宮川先生の一人ひとりに声かけし子どもたちを大切にされる学級づくりに感心しました。

参加者のみなさんの感想

・国語の授業で「つなぐ」をグループを囲んで再現してもらう実践は、子どもたちが周りの子どもたちの話を聞かないとできないことなので、子どもたちを一人ひとり大事にすることです。しっかりと聞くことにつながるんだと思いました。

「つまずきを減らす算数授業と

保護者への発信

鈴木 基久（静岡）

まず、算数の授業の具体例をたくさん紹介してください。

①形くじびきの模擬授業

先生が図形を一つずつ子どもたちに見せ「あたり」と「はずれ」に分ける。「あたり」

はどんな図形なのかを子どもが考えることで、図形の分類ができる。分類・共通についても学ぶことができ、国語の説明文の学習にもつながる。

②用語を大切にした指導

「三角形とは、3本の線で囲まれた形」だが「3つの角がある形」ではだめなのかを考え

る。図形の定義が言えるように、定義を用いて説明できるように取り組む。

③ドット方眼紙ハート形の分割

いろいろな形に分割することで四角形、三角形、長方形、正方形の理解が深まる。

2年生でつまずきが多い時計

3学期に日課表の時刻を答えるテストをしたところ、ほとんどの児童が時刻を正確に答えることができなかった。

・見えない時間を見える化する

パターンブロックを使う「時間どりじゃんけん」（公井むつみ著「学力再生」）

参加者全員で実際に行った。一人何個かのブロックをもつて、一対一でじゃんけんをして、パーで勝ったら相手からもらえるブロックが決まっている。最後に自分が集めたブロックが何時間になったか数える。楽しみながら時間の学習ができた。

他にも学校の日課表に合わせたカルタ

掛け算の学習

・面積図と数さがしで規則性を見つけるプリ

ントの紹介

10ます、九九ひょう、50ます、百マス資料もいただいた。

保護者への発信

・四月の参観授業

四月に学級懇談がないため、参観授業を通して親子で睡眠時間の大切さとスクリーンタイムについて考えてもらう授業を行い保護者の反応もよい。

学級通信を出さない地域なのでそれに代わる「週末の家庭学習情報」を毎週末にメール配信システムで送っている。内容は今週の子どもたちの様子、授業で取り組んでいることと、返したテストの結果分析、来週のテスト情報などである。

すぐに使える楽しい算数教材や読み上げ漢字など早速実践したいと思いました。

参加者のみなさんの感想

・算数では悩んでいた時計のカルタを使って実践していきたいと思います。

・鈴木先生のアイデアすばらしかったです。ぜひ、使わせてください。

三年生講座のまとめ

川崎 和代(大阪) 10名参加

「書く」とつながる国語の授業づくり

吉田 雅直

見通しが持て安心して学習に集中できる
国語授業のために、授業のパターン化と予習
課題を中心に報告されました。

チャイム音読、視写で学習内容をつかみ、
前日に発表された予習課題の自分なりの答え
を持つて学習に臨みます。その答えを意見交
流したあと、まとめ、ふりかえりをします。

音読の実技、視写の取り組み方、予習課題
の設定の仕方の説明があり、主な教材の予習
課題の例を資料でいただきました。

予習課題をすることによって、自分の考え
はどうかなのかという気持ちで、発表や意見交
流にも積極的に参加するだけでなく、友達
の意見もしっかり聞く態度が育ってくるそう
です。

ふりかえり文の、「〇〇さんの△△という

意見で……ということがわかりました。」とい

う記述で、みんなで学び合って、向上的変容
を遂げていることが素晴らしいと思いました。

予習課題を設定することが自分の教材研
究になり、子どものノートを見ることで授業
への切り込み方も考えられる。子どもどうし
の発言がつながれば、教師も集中できる。教
師が変われば、子どもも変わる。この言葉が
すごいなと思いました。

問われていることを

みんなで読み取る算数 根無 信行

クラスの3分の1近くの子が、支援・通級・
外国籍で支援が必要、協力することが苦手、
勝負事でトラブルになるという学級で、算数
の学習のベースになる力をつけ、みんなで「読
み取る」ためにされたことを報告して下さい
ました。

数の決まりや計算の手順、コンパスの使い
方など、唱え歌や合い言葉で身につける具体
例を教えて下さいました。3年生にぴったりの
楽しい活動だと思いました。

わり算の学習に入る前につまずきを見つ
けるために計算力実態調査、さかのぼり練習
をされました。あまりのあるわり算のための
ひき算、かけたし算が取り組みやすく単元の
学習に直結していると思いました。

問われていることを読み取るために、どき
どきわり算・にこにこわり算どちらの型かを
見つけることに特化した授業をされ、問われ
ているものに注目する活動をされました。

問題文を音読する。キーワードになる語句
を確認し、問題文に↓や印を入れる、メモを
書き込む。これらの作業をみんなで行い、共
有し、理解するという進み方が力をつけてい
くのだなと思いました。

正しく読み取る具体的なスキルだけでなく、
読み取ったことを具現化する活動、何度も繰
り返すことも、理解を深めるために大切なこ
とだということがよくわかりました。

四年生講座のまとめ

図書 啓展（ずしよ ひろのぶ） 大阪みなみ学力研 11名参加

●学級づくりで学力づくり

学ぶはみんなと ～国語～

井川 有香子（大阪）

4月の最初の学級づくりが学力づくりを始める土台となる。聞く力を育て、友だちを大切にするための言葉の重要性を説き、子どもの頑張りを評価していく。学級通信や連絡帳で子ども・保護者・担任三者のつながりを作っていく。

日々の健康観察の工夫、ペアトークの導入、班長会議・学級会・会社活動などを進めていった。学級づくりが「見えない学力」を担い、学力づくりの入り口を広げてくれる。

漢字指導では、つぶやき漢字をしつつ、百点を取ることを目的とする漢字相撲を学年として進めた。支援の子にも配慮した基準を設けて百点をめざし、全員参加の取り組みにできた。また、授業初めの5分間は「読み上げ漢字」に1年生からさかのぼってペアで取り組んだ。

授業では様々な班学習を進めた。個別学習から班での話し合いにつなぎ、班のまとめを廊下に貼り出して共有した。新聞づくりした



ものは参観日に披露した。学びを豊かにするには、学びを共有すること、その楽し

さと面白さを一年間かけて知ることが大切である。

【感想から】子どもたちが安心して学校に来るのびのびと活動できることでやる気も成果も上がるのだなと思いました。

●大切なことは何度でも

～困難なクラスで見た子どもの困りごと

小川 慶子（愛知）

十月から担任に。「面倒くさい」の連発「書くことへの抵抗が多いクラスだった。「読む力は学力の上限を書く力は学力の下限を規

定する」（岸本裕史）を胸に刻み「どの子も伸びる」をモットーに指導。「学力の指標20」（杉浦和彦）を参考に学力づくりを進めた。計算力の実態調査での得点分布は「二極化」。

以前が曖昧な宿題だったのに対し、毎日宿題を確実にさせた。宿題プリントを作り、漢字関連では国語辞典も引かせ、連動させて練習↓プレテスト↓漢字本テストと進めた。算数は既習内容の復習、「わり算忍者」で復習し、2桁も習得させた。

「がんばればできる体験」で「百マス5分チャレンジ」×↓↑と取り組む。「きのうの自分に勝つ」を全員達成。また、授業で「一斉指導→一人で考える↓ペアで考える↓ミニ先生に」の「出合いの椅子」システムが好評。かつとばせ都道府県、五色百人一首などみんなでやれば楽しい取り組みも。3学期に長縄大会に向けてチームを越えて教え合う姿に成長を実感。ただ、振り返って「愛着障害」と思われる子に課題を残した。

【感想から】苦しい時こそ学力研の確かな実践をコツコツ繰り返すことの大切さを教えてくださいました。

五年生講座のまとめ

山口 左知男（愛知） 18名参加

年生部会は18名の参加でした。京阪神が14名、愛知3名、沖縄1名という内訳です。遠方石垣島から誘い合って何人もの先生が参加されたということを嬉しく思うと同時に、学力研への期待の大きさを強く感じました。

分科会の報告者は、李詩愛さん（大阪）と堀井克也さん（愛知）。2本とも地道な取り組みの跡がよく分かる報告で学び多きものでした。

みんなでつながる

学力づくりと学級づくり

李 詩愛

まず、クラスの読み上げ計算についての映像を見ながら、李さんがクラスづくり・学力づくりで一番大事にしていることを話されました。自分の学習の伸びを喜ぶ子ども、そして、それを讃えて先生に報告する

おとなりさんの姿から、子どもたちがつながりながら学力を伸ばし合っていくことが学力づくりの根幹だと指摘されました。同感です。

5年国語の学力づくりについては、4つの柱を提示されました。①音読、②漢字学習、③ノート指導、④予習展開をもとにする授業づくりです。

①音読

音読は「脳の全身運動」であり、記憶力、集中力・注意力、コミュニケーション力、感情コントロールの力など、脳の多くの部分を鍛えていく活動であることを押さえ、様々な音読の方法を紹介しました。

②漢字

読み先行の漢字学習が有効であり、リズム漢字、つぶやき漢字などを通して集団で漢字の分解と統合に着目しながら楽しく習

得を進めていくことが学力定着に重要であると話されました。リズム漢字を参加者全員で読み合う中で、学びの雰囲気盛り上がっていました。

③ノート指導

ICT端末がもてはやされる中、振り返り自分の成長の跡が見えるノート指導の有効性、手書きの重要性を指摘し、連絡帳を毎日書くことで、書く力、視写の力が確実に育ったことが報告されました。

④予習展開をもとにする授業づくり

「大造じいさんとガン」での一人読み深めの予習活動が報告されました。「決まった答えはないので、だれでもできる」こと、「明日の授業に課題をもつ」ことで子どもたちの意欲が高まり、主体的に読みに取り組む中で読みの深まりが生まれたことがよく分かりました。

李さんの着実な取り組みの中に、実践の見通しと確信が強く感じられる報告でした。

●一貫性のある指導でどの子も伸びる

く互いに伸ばし合う授業づくりく

堀井 克也

まず、「高学年あるある」ということで、今の5年生の子どもたちのようすを参加者に問いかけました。「何があろうと歌わない、声を出さない子がいる」「授業で手を挙げる子が少ない、いつも同じ子」「同じことしか

関われない、男女の仲がよくない」「学級委員選挙に立候補する子が少ない、いない」皆さん領きながら話を聞いていました。そして、そういう子どもたちに「子ども中心

の学びと言いつつ、学びの責任を負わせて、結果に対して教師が全く無責任な状況にな

っていないか」と履修主義に走る教師の現状に鋭く切り込みました。特に、「学習意欲はその子のせいなのか？」という問いかけが印象的でした。

全体的に低い学力、発達に課題のある子が多い、人と関わるスキルが未熟、登校しづり・不登校が多い、リーダーができる人材が不足という目の前の子どもたちに、堀

井さんは成長ノート・学級通信を通して信頼を獲得しようとしています。「顔の見える関係になろう」を合言葉に「授業の中で集団を鍛える必要性」「男女関係なく関われるスキルを育てる」「必要性」「リーダーを育てる必要性」を強く感じながらクラスづくりを進めていきました。

算数の授業では、まずペア活動を重視しました。おとなりさんを大切にし、おとなりさんにとって『かけがえのない人』になることをめざし、百マス・読み上げ計算の取り組みの中で、競い合わず励まし合い、認め合い相手の成長を願う思いを育てていきました。

手強い5年生算数の一番のかべ「単位量・割合」が学力づくり報告の中心でした。楽しく体験を通して学ぶことを大切にしながら、「かけわり図」という4マス関係表を使って演算決定の方法を低学力の子どもたちにもスモールステップで繰り返し指導を続けられていました。一貫して同じ図を使っ

て問題を解く中で子どもたちに自信を養う

ことができていました。
1年間の「一貫性のある指導」によって「みんなの『できる』が増えた」「学習の中でかわりが広がった」「リーダー性を発揮できる子が増えた」という成果が生まれ「どの子も伸ばし、クラスの課題を解決することができた」と言える状態に近づくことができました。

討論の時間は、前半はペアトークを行いました。自己紹介の後、感想、聞きたいこと、自分の悩みなど好きなように話してもらいました。どのペアも盛り上がり話が終わらず、皆さん話好きでいろんなことを話したい、聞いてほしいのだと再認識しました。後半は「ペアトークのおすそ分け」「発表者に聞きたいこと」を話してもらいました。石垣島から参加してくださった先生からも、今日は沢山のことを学べたので今後

も学力研からいろいろ学んでいきたいと嬉しい一言をいただきました。

六年講座まとめ

荒井 賢一（サークルはやし） 26名参加

●概念でつながる

国語科授業づくりと学級づくり

古東 秀一

概念で捉えることで、物事を広い視野で、本質が見える。

宮沢賢治の「やまなし」で、変だな、不思議だなと感じるところを初発の感想として書かせた後、じっくり読み込むため、何度もペアで音読をさせていく。根拠を元に、二枚の青い幻灯や五月や十二月を検討させる中で、題名が「やまなし」であるかに迫っていく。さらに、賢治の伝記「イーハトーブの夢」を読むことで、作者論から主題にも迫らせていく。

立松和平の「海の命」では、物語の感想を一言で表させた後、物語の主題を読み取るための問いを考えさせ、学習計画を子どもたちに立てさせていく。

参加者の感想

子どもの自由な発想をうまく引き出し、つなぎ、まとめられているところに感じ入

りました。その裏には、先生の深い教材研究があるだろうと推測します。自分も学び続けたいなど、身が引きしまりました。

●総合的な学習の時間

子どもの思いにこころをこめて 加藤 英介

コミュニケーション能力が弱い子どもたちに、アドジャンやWHOAAMI?などで、その力をつけさせていく。

総合とは、自分たちのやりたいことを思う存分できる教科。六年の総合では、みんなが輝くことを提案書を出させ、企画を立てさせ、失敗や事件を通して、よりよいもへと昇華させていく。

（参加者の感想）

加藤先生のお話をきいて、子どもの思いに応じられる総合だからこそ、もっと子どものやりたいことをきいてみようと思いました。質問に対して全て教師が答えるのではなく、子どもと一緒に考えたり、道しるべを示すことを真似したいと思いました。

教科書の読解記憶

論理の記憶でどの子も伸びる

久保 齋

この日、久保先生の新聞『子どもの学力を伸ばす不滅の一言授業』が初発売。

公私の「公」では「学力をつける」。このことは教師が仕切って授業する。「私」の部分は「自由にどうぞ」の姿勢が大事。

社会科・理科で、テストを予告し、教科書丸写しのテスト勉強をさせ、協同で問題の解き合いをテスト始まる一秒前までさせる。百手満点大作戦の結果を保護者にも伝えていく。

国語は、六年の全漢字の読み書きを同じプリントで何度でもくり返す。網羅的学習で子どもたちに学力をつけていく。

（参加者の感想）

基本的なことをやっていく重要さを改めて感じました。やってみたい！と思ってもなかなか学年の中で自分だけでできないこともあったり、全体でやっていくにはなかなか難しそうだと感じたり、いろいろ課題もあります。が、夏にどうしていくか、何ならできるか、考えていきたいと思っています。

中学・高校・家庭教育分科会のまとめ

阿久澤 恵子（群馬） 16名参加

●話す・聞くから手書き言葉

手書きの良さを見直す実践の大きな柱になっているのは、岸本先生の「学力は読むことで獲得し、書くことで定着する」と言う言葉です。気が付くと実践の中核は「書くこと」による学力づくりになっていました。子どもたちは、A野ノートを4分割し、問題を解いては直していく自主学習に日々取り組み、様々な力を付けていきました。この自主学習から、子どもたちは、毎日ほんの少し続けていくと、すぐに成績はのびなくても自分に力が付いていると実感できたり、同じように頑張っている友達が刺激や目標になっていたように感じました。面倒くさいことが学力をつける一番の近道になることを知ったという子どももいました。子どもたちの感想から、4分割ノートの自主学習が、子どもたちに勉強を真正面から向き合わせ学力を付けていった様子がわかりました。

*コロナ禍においても、対話のできない学習

環境の中で、威力を発揮したのは「書く」課題でした。指導者がいない困難な中「学習のおたより」を発行し、子どもたちの学習や生活を支えました。子どもたちは、自分のペー
スで漢字プリントや割り算A型など5つの課題に取り組みました。「書くこと」には大きな意味があります。学習量を自分で決められ、取り組んだプリント類を成果物として量と質を目で確かめられ達成感や充実感を得ていました。

*国語科の教科経営の柱を3つ立てています。1つ目は、ノート指導です。ノートは書字力をつけるため「大きく、濃く、丁寧」に書くように指導しています。「ノートに書く」学習を継続していくと、ノートが自分だけの参考書になり、それを参考書として活用する子どももいました。2つ目は、新出漢字プリントです。手作りのこのプリントは、子どもたちに力をつけるために考え続け、変化していきま
した。新出漢字の読み（音と訓）、熟語（2語）

の意味と練習、用例調べ（2例以上）をするようになっていきます。ある子どもは、「漢字の知識が増えると一気に本が楽しくなり、きらいだった新出漢字プリントが大好きになりました。」と伝えてくれました。3つ目は、作文指導です。独自に作成した「文章の書き方」活用して、文章の書き方を徹底指導しました。例えば、表現の幅を広げるため、書き始めに「僕は」「私は」を使わないこと、「すごい、すごい、なので、おもしろい、頑張る」などの語句は使わないこと、「僕は、私は、〜と思う」などの表現は極力減らすことなどです。そして、作文を書く機会を多く設け、テストでも毎回課題を出題しました。こうしたことの継続で、子どもたちに作文への抵抗を軽減させることができました。

*「書くこと」は「生きること」へも繋がっていきます。学力としてだけではなく、子どもたちが生きやすくなるための「書くこと」の方法がいくつかあります。コピーング→ストレスに対する自分の対処法を書き出すメモ、筆記開示→辛い体験やトラウマを文章にする心理療法など、脳を刺激し感情を吐き出すためにも手書きが有効なようです。

人間にとって最も恐ろしい生き物とは？

相談すると解決できることがある

これまで、家で蚊に悩まされてきた。

寝ているとき、耳元でブーンと羽音が聞こえると、その後、その蚊を退治するまで、夜寝られないことが多かった。また、足や腕など、いろんなところをさされ、かゆみに身もだえしていた。

ある日、教育サークルで一緒に学んでいる先生に、蚊についてどうしているかを何気なく聞いてみた。（相談してみたわけだ。）すると、有名どころの蚊よけのスプレーを使っている、と教えてもらったのである。

匂いもせず、スプレーするだけで、蚊が退治できるそうだ。

さっそく学校帰りに、薬局で「アースノーマット 1プッシュスプレー 200回分」というのを898円で購入した。

速く効く…空間に浮遊する薬剤が直撃

長く効く…薬剤が天井・壁・床に付着後再浮遊

※4.5〜8畳あたり、1プッシュで約12時間蚊に効く。

1プッシュするだけでいいなんて、びっくりだ。

実際に使ってみると、匂いは全くしない。そして、使い始めて二ヶ月、まだ一度も蚊に悩まされたことがない。（そのため、朝までぐっすり眠ることができた。）

しかし、こんな簡単に蚊問題が解決するとは、思ってもいなかった。

もしかすると、人に相談して解決できる問題は、意外に多いのかもしれない。

授業プラン「最も恐ろしい生き物」①

【板書】人間は様々な生物の影響で

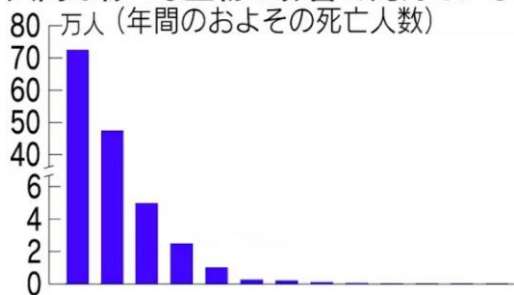
「（ ）にどんな言葉が入るでしょうか。」

- ・人間は様々な生物の影響で生きている。
 - ・人間は様々な生物の影響で存在している。
- など

【板書】人間は様々な生物の影響で死んでいる。

グラフの一部を提示する。

人間は様々な生物の影響で死んでいる
万人（年間のおよその死亡人数）



「いったいどんな生物の影響で人間は死んでいるのでしょうか。」

一人を指名し、生物名を言わせ、それを板書する。

【板書】①クマ

ノートに番号を振って箇条書きさせ、数分後に発表。

※(サークルで模擬授業したとき、以下の生物が出された。)

サソリ ハチ 細菌 薬草 ヘビ
毒キノコ サメ 熊 蚊

「どれが一位だと思いますか。」

挙手をさせ、理由が言える子には言わせていく。(略)

グラフのベスト4〜13位まで紹介してから、3位、2位、1位と紹介する。

「3位はヘビです。一年間に何人が亡くなっていますか。」

・5万人。

「2位は人間です。どういう意味ですか。」

・戦争で殺されたりしている。

人間によって人間が一年間で約48万人死んでいることを確認する。

「1位は蚊です。何人が亡くなっていますか。」

・約72万人。

【板書】蚊について知っていること

ノートに箇条書きさせ、数分後に発表。(略)
赤血球

閑話休題・教師の教材研究

大木邦彦『ドキドキいっぱい!虫のくらし写真館15カ』(2004.4ポプラ社)に、以下の記述がある。

日本には二のしゅるいほどの力がありますが、そのうち人間をよくさすのは、 $\frac{8}{10}$ しゅるいほどです。ほとんどのしゅるいの力は、メスだけが血をすいます。オスが人間やかちくなどをさして血をすうことはありません。

では、どうしてメスだけが血をすうのでしょうか。じつは、メスがさして血をすうのは、おなかのなかにあるたまごを大きくそだてるためなのです。

すった血は、じぶんのからだをたもつためのえいようとしてではなく、たまごをそだてるためのえいようとしてだけつかわれます。

カの口は1本のくだのようにみえますが、じつは、血をすうくと、ナイフのやくめをするあし、ますいのやくめをするだえきをおくるくだにわかれていきます。そして、これら

ぜんたいをつつのようになったさやがつつんでいるのです。

ひふにとまった力は、血をすうくだの先をあちこちさして血がながれているばしよをさがします。つぎに、うすいナイフのようなあごでひふを切りさいて、そこに血をすうくだをさしこみます。そして、くだを血かんのなかにいれて、血をすいあげるのです。さしながら、いたみをにぶくするだえきなどをはきますが、これが人間のからだにかゆみをおこすもとになります。

授業プラン「最も恐ろしい生き物」②

次の四つの問いを提示する。

- ①知らない内に蚊にさされるのはなぜ。
- ②蚊にさされると、かゆくなるのはなぜ。
- ③蚊はどうして血をすうのか。
- ④蚊にさされないために、どうすればいいか。

①から順に、予想や分かることを発表させていく。

篠原菊紀・監修『考える力がぐんぐん伸びる！「力にさされるとどうしてかゆくなるの？」科学のおんごん』（2024.6リベラル社）も紹介する。（プリントにして、音読させてもいい。）

『日本経済新聞』2014.7.4の記事「最も恐ろしい生物は蚊」も紹介する。

人間にとって一番恐ろしい生物は何か。サメやライオンといった猛獣を思い浮かべるかもしれない。実は、最も人間を殺しているのは小さな蚊だ。

世界保健機関（WHO）や国際連合食糧農業機関、論文などのデータをもとに、ビル・ゲイツ氏らが分析したところ、年間およそ2万人の死因となっている。サメにかまれて死ぬ人は年に20人ほどしかない。

蚊の怖さは何か。マラリア原虫を媒介することだ。血を吸う時に蚊が分泌する唾液の中にいる原虫が人間に感染してしまう。主な感染地域は熱帯で国内では今でこそ珍しいが、平清盛が苦しんだ熱病がマラリアだったという説がある。いまだに全世界の半分が危機に

さらされ、WHOによるとアフリカで子供が一人に一人が死んでいる計算だ。

アレキサンダー大王も、蚊の感染によりマラリア熱にかかって亡くなったといわれている。（今回の授業で扱ったグラフは、この記事に掲載されていた。）

【板書】蚊にさせないための方法

班で相談させ、蚊にさせないための方法を発表させていく。（略）

『読売新聞』2024.8.10「蚊と人類の長き戦い、歴史を変えた「緑の渦巻き」」を紹介する。

万葉集の和歌に、「蚊火」という言葉が残されている。日本では蚊帳（かや）や、ヨモギの葉、ミカンの皮をいぶして煙で追い払う蚊遣り火かやびでしのいできた。ただ、煙たい割に効果は薄かった。

歴史を変えたのが、夏の風物詩にもなった緑の渦巻きだ。

後の大日本除虫菊が、欧米でノミの駆除に使われていた除虫菊の種を入手し、花の粉末を練り込んだ「蚊取り線香」を1890年に

発明した。有効成分のピレスロイドは、蚊など昆虫の神経をマヒさせる。哺乳類や鳥類は体内ですぐに分解されるため、ほぼ無害だ。

棒状で40分ほどで燃え尽きたが、渦巻き型に改良されると6時間以上もつようになった。現在は、成分は化学合成されている。複数のメーカーが、微粒子にして即効性を高めたスプレー式、液体にして温めるリキッド式など、手



ど、手軽で多様な商品

り出している。

蚊対策の歴史に詳しい大日本除虫菊の上山久史・取締役相談役は「殺虫力が強い成分は他にもあるが、人体の安全や環境への影響を考えるとピレスロイドより優れた成分はない」と話す。

日本開発の蚊帳は、マラリアの多い地域で、多くの人びとを守っている。最後に、1プッシュスプレーの実物を見せて効能・効果を紹介し、授業を終える。

第五時間目「古墳づくりと渡来人」

学力研常任委員 深沢 英雄

一、教科書の想像図などをどう扱うか

今、使われている教科書には、「想像図」が多く掲載されています。

指導書の教師の発問や指導の留意点をみてみましょう。

縄文時代・弥生時代では、「教科書六十八ページから六十九ページの二枚の想像図を見て、気づいたことは何でしょう。」「縄文と弥生の想像図を比べさせることで、人々のくらしに変化が現れてきていることをおさえようとしています。」「教科書七十四ページ『弥生時代の米づくりのようす』の想像図を見て、気づいたことはなんでしょうか。」「では、縄文を比較して、弥生の人々はどのようなくらしをしたのかなどの疑問を引き出し、追究させたいと指導書にはあります。

歴史の授業を進めてきて、子どもたちは、想像図を見て、色々な発見をするようになってき

ますが、「気づいたことは何ですか」という発問は、子どもが自由に資料を見る入口としては有効です。しかし、それでは、「人がたくさんいます。家があります。犬がいます。服が違います。」「といった断片的な発見の発表で終わります。」「最初からすべての観点を教師が与えると、教師が指定した箇所だけを探すことになりませんが、まずは自由に見せて、子どもの発言を整理していくことが重要です。縄文、弥生では、教科書に人物・建物・道具・その他という衣食住という観点が例示されていました。この観点を最初からすべてやると歴史学習をはじめたばかりの六年生の子どもたちには負担があるので、この連載の実践で紹介したように、縄文・弥生ではを食にしぼって授業を組み立てました。

古墳づくりのようすの想像図から見て、気づいたことを考えてさせていきます。

その前に、「想像図とは何か」を整理しておき



図・古墳づくりのようす(想像図) 古墳づくりからは、当時のすぐれた土木技術がわかります。

ましよう。子どもは、写真と想像図を同じように受け止めがちです。そのため、最初に次のことを伝えておく必要があります。

「これは、その時代を実際に見た人が描いた絵ではありません。発掘された土器・道具などをもとに、当時の様子を考えて描いた絵です。」「発掘によって確かめられた部分・資料をもとに推測した部分・まだよく分かっていない部分」が一枚の絵の中に混じっている」ということを説明します。「想像図」という言葉を、単に「自由に想像して描いた絵」と理解させない配慮が重要です。「証拠をもとに復元した図」

「研究成果を分かりやすく表した図」と説明したほうが適切でしょう。

想像図を授業で使う前に、教師は次の点を調べておく必要があります。何を根拠に描かれているか。どの遺跡をモデルにしているか。どの地域・年代の様子か。描かれた建物や道具に、どんな出土根拠があるか。指導書に図の解説や典拠が示されているか。

日本文教出版の教科書には左のページに「大仙古墳（仁徳陵古墳）の写真があるので、大仙古墳がモデルのように子どもは感じるかもしれません。

二、古墳づくりの授業の流れ

教科書には、「古墳づくり」と書いていますが、教師の言葉としては、「この絵の中で気づいたことをできるだけたくさん見つけてください」と言います。子どもたちは、「大勢の人が働いている。土を運んでいる人がいる。石のような物を運んでいる。人が列になっている。高く盛り上げられた場所がある。斜面に石が並べられている。周りに溝がある。指示を出しているような人がいる。遠くに住居や田畑が見える。現代のような重機は見当たらない。」と言います。

想像図だけで完結させず、必ず考古資料と組み合わせます。墓石の写真を見せます。



この段階では、教師がすぐに正解・不正解を判定しないことが大切です。子どもの発言を、「見えたこと」と「考えたこと」の二つに分けて板書します。

図に描かれていること（見えたこと）

◎ 大きな盛り土がある

◎ 指示を出すような人がいる

そこから考えたこと

● 完成まで長い時間がかかったのではない

● 人々をまとめる責任者がいたのではない

この区別を丁寧にさせると、社会科で大切な根拠に基づく考え方が育ちます。国語の物語文・説明文の指導の「文にもどれ」と同じです。教師がお墓まいりをしたことある人

子：行ったことある。ない。

教師：お墓は亡くなった人が入るところですね。前の時間に勉強した、「卑弥呼」が亡くなる時

がきました。魏志倭人伝「ぎしわじんでん」（中国でまとめられた古い歴史の本）には、「卑弥呼は死に、冢（お墓）を大きく作った。直径は百余歩」と書かれています。その卑弥呼の墓ではないかと言われているのが、このお墓です。古墳とよばれます。きちんと調べることでできないのは、はつきりとした墓が葬られているのかは分かっていません。



教師：ここでクイズです。日本に古墳はいくつあるでしょう？

1, 約2万 2, 約8万 3, 約10万 4, 約16万

正解は、4, 約16万

コンビニの数が現在5万6千店です。

教師：教科書にのっている古墳は、大仙（仁徳天皇陵）古墳、日本で一番大きな古墳です。長さ、面積が日本で最大です。（次号に続く）

局長だより 9月

◇学力研最新情報 岸本 ひとみ
○下半期の学習会

★第20期先生のための学校

20周年記念 特別記念講演会

「先生のための学校」は、教師が学び続ける場をつくりたいという思いから始まりました。授業づくりに悩む教師が一人で抱え込むのではなく、互いの授業を持ち寄り、子どもの姿を中心に語り合う場をつくることを目的として研究会が立ち上がりました。

■場所…エル大阪

■プログラム

『先生のための学校で

学んできたこと』

岡本 美穂

『不滅の一斉授業』

久保 齋

『明日も行きたい学級づくり』

赤坂真二先生

上越教育大学

学校教育専攻科教授

主な著書に、「気になる子」のいるクラスがまとまる方法」「スペンシャリスト直伝「学級づくりの極意」、他多数。

鼎談

- ・赤坂真二先生(パネリスト)
- ・久保 齋先生(パネリスト)
- ・岡本美穂先生(パネリスト)
- ・深沢英雄先生(ファシリテーター)

申し込みは[こちら\(くちゅず\)](https://www.kokuchupro.com/event/9e9d7f05d09f7d402e7fe99e979208f/)

<https://www.kokuchupro.com/event/9e9d7f05d09f7d402e7fe99e979208f/>

●第2回 たかつガーデン

11月14日(土)

予習展開による国語授業

李 詩愛

社会科の授業づくり

久保 齋

●第3回 たかつガーデン

12月19日(土)

教科書とノートが変える

社会科授業 深澤英雄・岡本美穂
先生問題で高める数学的読解力

久保 齋

●第4回 たかつガーデン

1月9日(土)

教科書にひと工夫 算数授業

図書 啓展

理科満点大作戦

久保 齋

●第5回 たかつガーデン

2月13日(土)

子どもたちのやりたいを刺激する

理科・生活科

荒井 賢一

久保 齋

国語満点大作戦

久保 齋

★1年生講座

●第7回 オンラインにて

9月26日(土)

国語 くじらぐもの授業

算数 くり上がりのある計算

●第8回

10月24日(土)

国語 じどう車くらべ、

いろいろなふね の授業

算数 くり下がりのある計算

●第9回

11月28日(土)

国語 おとうとねずみチロ

たぬきの糸車 の授業

算数 大きなかず

●第10回

1月23日(土)

国語 年度末までに

つけておきたい力

算数 計算を習熟させるには

※申し込みは[こちら\(くちゅず\)](https://www.kokuchupro.com/event/9e9d7f05d09f7d402e7fe99e979208f/)にて

★春の石垣集会

今年の春の集会は、石垣島で開催します。春休みですので、この機会に石垣の海開きを経験するというのはいかがででしょうか。

●3月28日(日) 予定

会員(会費は下半期2000円)の方は、オンライン講座無料。対面学習会は会員割引があります。

●メルマガのご登録
よろしくお願致します。

「まぐまぐ学力研」

学力研カレンダー

≪各地のサークル・部会

2026年 9月

例会、イベント≫

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

9/

- 4 (金) いろえんぴつ 18時半～ コミュニティーセンターおおべ 岸本 090-9117-6330
25 (金) 春日井学力研 18時半～ レディヤン春日井 山口 080-6904-1697
26 (土) みなみ学力研 9時45分～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
26 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp
社会科実践研究会 李 iwamotoshie@gmail.com

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

他サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等にご連絡ください。

○9月末 伊丹学力研 18時半～ 伊丹市役所横サイゼリヤ 前田 090-9715-3830

《全国キャラバン等 今後の予定》

○ 学力研 1年生講座 9月26日(土) 13:30～14:30 オンライン

◎ 20周年記念 先生のための学校 (於エルおおさか)

10月17日(土) 13:00～16:45

特別記念講演 赤坂真二先生 (上智教育大)

岡本美穂「先生のための学校で学んできたこと」

久保 齋「不滅の一斉授業」

深澤英雄を加えた鼎談

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一

E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛

E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也

E-mail katsuya4klh9@gmail.com

古東 秀一

E-mail kohigasi1201@gmail.com